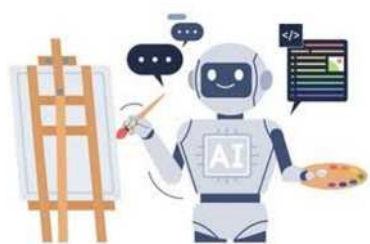


税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。昨今、中国の映画の制作方法が話題を集めています。シナリオはAIが作成し、出演者もAIといった完全なAIコンテンツです。



しかも、あるAI女優(架空?)のSNSは52万人ものフォロワーがいるそうですから驚きです。

AIドラマは制作費が安く、俳優(女優)や撮影機材・場所が不要かつ、パソコン1台で誰でも、どこでも制作が可能です。また、1話当たりの制作費用は2分程度の作品で日本円で7万円程度と格安です。

一方、人間が出演する映画(ドラマ)は感情表現が大切です。私たちは演技の上手さ

(細やかさ)に魅力を感じ、演者のリアルな表現に感動、勇気、元気が与えられます。

さて、AIに関する勉強会に職員と参加しました。生成AIの出現からわずか3年だそうです。講師の「皆さんはAIの進化成長で仕事を奪われないと思っているでしょう・・・」。しかし、「かつて、一世を風靡した日本の家電、レンタルビデオ等、どの業種も数年後に自社の主力商品・産業が無くなるなんて考えていなかったはずです。自分だけは大丈夫との楽観的な考えは捨てましょう」との言葉が耳に残っています。

新しい技術(AI)はゲームチェンジャーになる可能性があります。何とか共存する方法を見出しましょう・・・。

血液型

日本人の好きなもののひとつに「血液型診断(占い)」があります。多くの方がご



存じの通り欧米では血液型と性格を結びつける文化はほとんどなく、初対面で「血液型は?」と聞くと「なぜそんな個人情報を?」と驚かれることもあるそうです。

日本に血液型診断が定着したのは1970年代に一冊の本がベストセラーになり今のそれがブームの原型になったと言われています。日本人の血液型は、A型(約

40%)、O型(約30%)、B型(約20%)、AB型(約10%)のようで、日本では多くの場合、A型(几帳面)、B型(自由人)、O型(大らか)、AB型(個性的)の性格が共通認識です。

また、血液型診断は科学的根拠が弱いにもかかわらず、日本では「何型?」→「やっぱり!」→「O型っぽい!」という会話が成立します。つまり血液型診断は、性格を正確に当てる道具というより、人との会話を始めるための「共通言語(コミュニケーションツール)」としての機能があります。つまりAIが絶対やらない無駄(非合理的)の一つです。

環境が性格に影響

先ほど紹介したように、日本では血液型で自分自身の演ずる役割が決められています(?)。また、4つの簡単な分類がその決め手です。



たとえば、例えば子供のころから「A型は几帳面なんだよ〜」と言われ続けたA型の人がいるとします。本人も、「自分はA型だからきちんとしなきゃ・・・」と思うようになり、几帳面な行動が増える可能性

があります。これは、「血液型が性格を作った」のではなく、「社会的な環境が、人の行動に影響した」という事です。

確かに、A型(几帳面)、B型(自由人)、O型(大らか)、AB型(個性的)の分類だと、どの血液型でも他人から「O型ぽいね」と言われても気を悪くする人はいないでしょう。

人間の集団(組織)

先ほどふれたAIの講習会で、ある会社の社長が「毎日AIに4000字のブログを書

かせている」と自慢していました。いったい何の意味があるのか疑問(私には?)です。感情がある人間が創り上げた著作物(映画、本、情報)に人間は共感するので、人間が積み上げてきた過去の歴史の平均値を分析しAIが映画や本などの作品を作り上げるとします。数年後にはAIが作った作品をAIが模倣し、AIが新作を発表する時代になると思うと・・・かなりゾッとしますね。



さて人間の話に戻ります。血液型診断が正しいのなら業種や仕事ごとに適材適所な配置が可能です。事務関係は几帳面なA型、営業は業種や取り扱っている商品・サービスによりB型(自由人)、O型(大らか)、AB型(個性的)が適切でしょう。

実際は血液型に関係なく、いろいろな性格や考えをもった人が集まっているからこそ会社は変化し成長します。もちろん困った性格の持ち主が組織にいるのが現実ですが・・・それが会社という組織の長所であり欠点でもあります。

「ぐちをこぼしたっていいがな 弱音を吐いたっていいがな 人間だもの」、「つまづいたっていいじゃないか にんげんだもの」、「七転八倒 つまづいたり ころんだりするほうが 自然なんだな 人間だもの」、「なやみはつきねんだなあ 生きているんだもの」
(相田みつを)

編集後記：

AIの講習で学んだ話です。経営者が「若手を選抜しAIチームを立ち上げた」が失敗に終わったそうです。なぜなら若手は自社の実態(業務の内容や改善点)に対する知識・経験が不足しているからです。業務の内容を熟知し、改善点は何かという本質的な目的が見つけられる中堅以上の職員がAIを使った業務改革に適任だそうです。AIを活用するためには「人間の経験」が必要というのも・・・はからずも皮肉な現実ですね・・・(寿)。